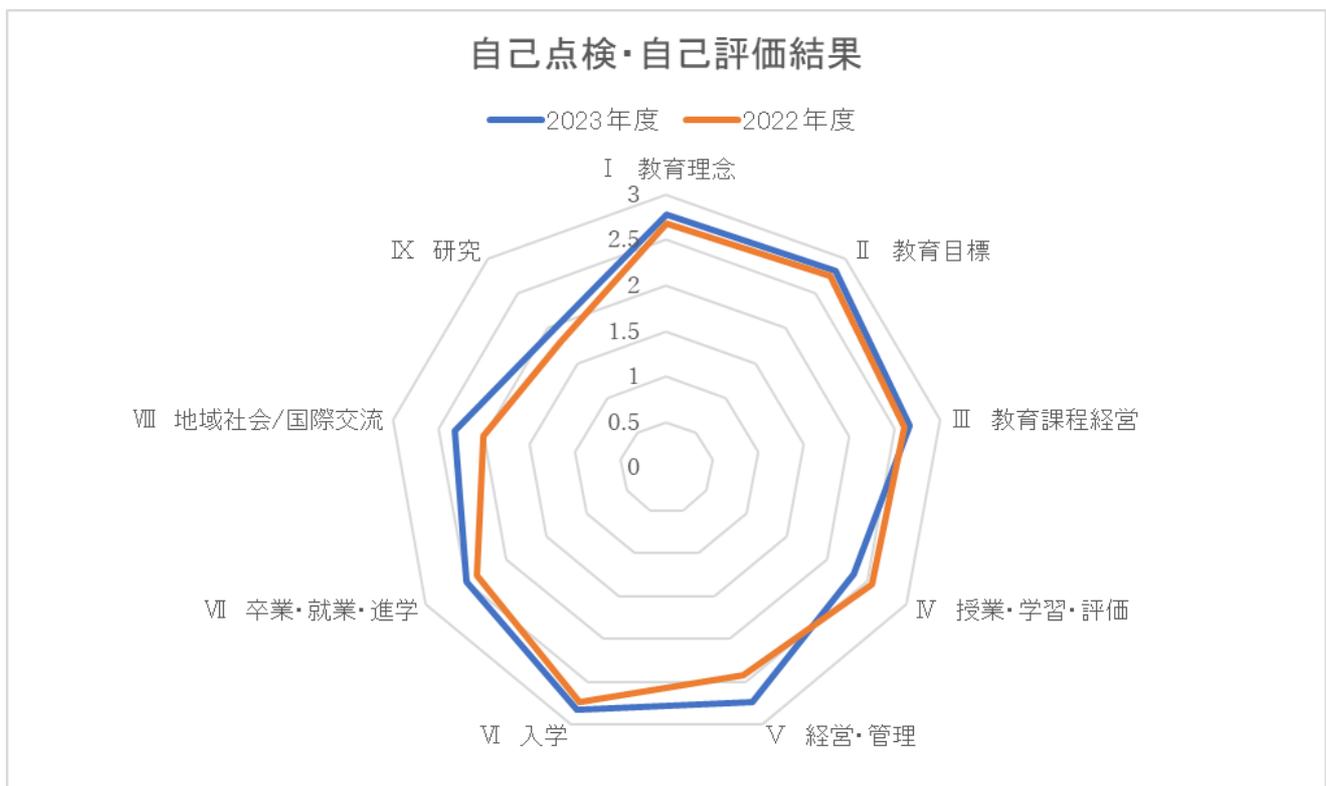


2023年度 自己点検・自己評価結果

評価は、「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」に基づき評価した。

1. I～IXの категорияとその評価項目（121項目）を、3段階評価（3：当てはまる、2：やや当てはまる、1：当てはまらない）評価した。
2. 評価点は評価者が3段階で評価した平均値とした。

カテゴリー	評価点（ ）は2022年度
I 教育理念	2.78 (2.68)
II 教育目標	2.83 (2.75)
III 教育課程経営	2.66 (2.61)
IV 授業・学習・評価	2.33 (2.57)
V 経営・管理	2.73 (2.42)
VI 入学	2.82 (2.73)
VII 卒業・就業・進学	2.49 (2.36)
VIII 地域社会/国際交流	2.32 (2.01)
IX 研究	1.95 (1.79)



総括と課題および学校関係者評価

I 教育理念・教育目的（対前年度比+0.1ポイント）

総括	
	新カリキュラムでは、カリキュラムポリシーで教育内容・教育方法・教育環境を、ディプロマポリシーで卒業時の要件を明確に示し、講師会議で講師、実習施設へ周知を図った。また新カリキュラムでは「LLL論」を設定し、設置主体の理念と本校の理念との関連、本校の理念の説明と理念に基づいた活動を取り入れ、学生への学習の指針になっている。卒業時には理念の解釈を再確認し、学生自らの言葉で説明できており、学習の指
課題	
	教育理念・教育目的の理解のために、継続的かつ具体的に教職員会議で検討し、明文化して周知する。卒業時にもつ資質を評価するための就職先へのアンケートを実施し、今後の教育方法を検討する。
学校関係者評価	
	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムポリシーとディプロマポリシーを制定して看護教育と看護人材育成に取り組んでいる。本校が独自に掲げる理念3Lに基づき「LLL論」を設定し、看護師として持つべき資質を身につけさせ、教員が自信をもって社会に送り出すまで取り組んでいる。 「LLL」の理念に基づいた教育を実施されており、卒業生の成長につながっている。

II 教育目標（対前年度比+0.08ポイント）

総括	
	<p>ディプロマポリシーは、教育理念・教育目的と一貫して設定したが、カリキュラム運用2年経過したことと教職員の入れ替えがあり理解度に差異が生じた可能性がある。</p> <p>新カリキュラムで各学年の到達目標を設定し、期初、中期、期末にディプロマポリシーの確認、評価を実施し、結果を共通認識している。またディプロマポリシーの達成に向け、教育理念・教育目的・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを基に教務部の部門目標を設定した。</p>
課題	
	ディプロマポリシーの到達状況から、教育理念・教育目的・ディプロマポリシーの関連を検証する。また、ディプロマポリシーの到達のための方策を検討し継続して取り組む。
学校関係者評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ディプロマポリシーを実践することを職員の共通認識とすることとし、卒業生の活躍状況を把握して、その結果を教育目標の見直しや到達度の評価を行い、教育の質向上に努める必要がある。 昨年度と比べ全体的に評価が高くなっており、新カリキュラム運用2年目で積極的な取り組みが行えてい

III 教育課程運営（対前年度比+0.05ポイント）

総括	
	<p>教育課程編成は昨年度3.00、本年度は2.71である。カリキュラムを運用した結果と考えら、科目の設定理由、到達目標の見直しの必要がある。現在、カリキュラム評価体制を構築中である。</p> <p>課題だった授業準備のための時間は個々のタイムマネジメントの他、教務事務との連携内容の見直しと方法を整備し、時間の捻出につながった。また講義準備にかかる「職場と自宅での内容」と「自宅での準備時間」を調教員のスキルアップのため、本年度の研修参加は平均1名につき5回である。</p> <p>臨地実習施設へ本校の理念やディプロマポリシー等の説明は講師会議や合同臨床指導者連絡会で行った。実習施設の臨床指導者は各部署2名必要なところ整っていない部署がある。</p> <p>毎月開催している臨床指導者連絡会義で実習指導者と教員で質向上のために指導方法を検討し、指導に取り入れることができている。また学生ヒヤリハット報告を分析し、早期に臨床に周知し、指導につなげている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症への感染対策のため、体調確認とN95マスクの装着の方法の確認を随時実施した。学校長から年6回、感染症対策の講演を受け防止策を講じた。</p>
課題	
	<p>全学年が新カリキュラムとなるため、カリキュラム評価を行い、体制を構築する。</p> <p>実習指導者の確保について実習施設への働きかけを継続し、看護実践の学びを支援する。</p>
学校関係者評価	
	<ul style="list-style-type: none"> 教育（指導）的知見だけでなく、変化する社会・地域に合わせた臨床の変化、看護実践についての知見をもっと広げられるとよいと思う。 臨地実習受け入れ施設として実習指導者研修を修了している者がどの程度必要か等の要件の明確化が必要。 実習指導者研修を受講できる人数も限られているため、養成が難しくなっている。

- ・令和6年度から全学年が新カリキュラムとなる。新カリキュラムやディプロマポリシーが教員に浸透し、学習環境の整備がすすんでいる。教員の質向上の取り組みも徐々に整備されてきている。実習病院での教育体制（臨床指導者）が十分とはいえず、整備が必要である。
- ・ e 3-2 や f 2-1 の評価は令和4年度と比較して改善しており、業務の見直しが行われているものと考え

IV 授業・学習・評価過程（対前年度比-0.24ポイント）

総括	
	<p>授業内容はデュプロマポリシーと科目の関連をカリキュラムマップで明確にし、カリキュラムポリシーで本校のカリキュラムの構成を明記した。</p> <p>授業形態は到達目標を達成するために妥当と考える形態を設定しており、教員間の共有と協力体制がとれている。講師会議では本校の目指す教育について外部講師と実習施設に説明をしており、アクティブラーニングでの講義が増加している。</p> <p>評価は科目の評価方法は設定しているが、単元の評価計画までは明確ではない。学則に基づいて評価し公平性は保たれている。教育目標の評価は卒業時の到達状況から確認している。</p> <p>学習支援は各学年でシラバスの説明、模擬試験や面談等の年間計画の説明と実施、個人目標の設定と評価を実施しており、教員と学生で進捗の確認もできている。</p>
課題	
	<p>評価計画の共通認識を継続する。</p> <p>C 2 の「多面的」に評価するための方法を検討する。</p>
学校関係者評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・講師料の見直しについて、他の医療機関や学会等の講師料と比較し、社会の状況からの検討をお願いできればと思います。 ・講師会の開催時間・方法について。看護師数が減ってきており、開催時間をもう少し遅らせていただくなどの検討をしていただけると病棟への影響も少ないと感じます。 ・授業内容、授業形態、評価について教員同士の意思統一をはかり外部講師との連携も強化することで授業の質向上に努めている。学生の到達度を形成的評価する機会を設け、フィードバックすることで学生の学ぶ意欲を増加させることが望ましい。 ・ c 2-2 が令和4年度より評価が下がっている。「多面的な把握」についての検討が必要と考える。

V 経営・管理過程（対前年度比+0.31ポイント）

総括	
	<p>意思決定システムは各種会議規程、校務分掌により明確にしている。教職員の任用は設置者である財団側が理念や目的の整合性に照らし合わせて行っている。教職員の資質の向上のため4月に大原記念財団看護師の非常勤講師への講義方法の説明を実施した。</p> <p>学生生活の支援は、奨学金制度、図書の利用、外部業者の学習支援、スクールカウンセラーの配置などを行っている。</p> <p>保護者への情報提供は、入学時・宣誓式後・2年次年度末に実施している。また、ウェブポータルを活用しリアルタイムに情報を提供している。学校の広報はオープンキャンパスや進路ガイダンス、進路説明会、高校訪問の他、ホームページ、インスタグラムでの発信もしている。</p>
課題	
	<p>看護師を目指す人材の確保のため、情報提供のための広報活動に積極的に取り組む。</p> <p>学生と教職員が円滑に活動できるように継続的に施設設備の整備を行う。</p> <p>教職員の質向上のために研修の参加等の研鑽に継続して取り組む。</p>
学校関係者評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の任用は、財団ばかりでなく広く育成への意識を向けないと、養成所の減少により専門学校は人材不足になることが懸念される。 ・学校長と職員は設置者の学校設立理念を理解し、定期的に意思疎通を図り、管理運営などで両者の乖離が無いよう整えている。 ・非常勤講師への講義方法の説明や教育目的等の説明はていねいに実施されている。

VI 入学（対前年度比+0.09ポイント）

総括	
----	--

アドミッションポリシーを明示している。試験委員会で入学者の分析を基に選抜方法について検討している。本校の学生募集に関する考え方は某大学のアドミッションオフィサーの助言の基、妥当であるとのご意見をいただいた。
課題
募集に関して管内高校と情報交換をして学生の動向を見極め、入学制度の検討を行う。
学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・経年的に入学希望者が減少傾向にある。近年は応募者の学力から見て、点数上位者は4年制大学へ入学し、本学はその次にランクされる生徒が入学してくる傾向が顕著になってきた。優秀な生徒をどのように集めるか、看護専門学校としての魅力を高校生（最近では小中学生も対象とすべきとの声もある）に対しどのように発信していくか課題である。 ・少子化の中、社会人の入学制度について検討が必要と考える。

VII 卒業・就業・進学（対前年度比+0.13ポイント）

総括
<p>卒業生の到達状況の学生及び教員の評価を行った。新カリキュラムはディプロマポリシーからの到達目標を各学年で学生及び教員評価を行った。</p> <p>卒業生の活動状況を把握するため、本年度はホームカミングディを開催した。卒業生の就職先へのアンケートは内容の検討と2年に1回実施するよう体制を整備した。</p>
課題
<p>ホームカミングディを継続し、卒業生の活動状況を把握する。</p> <p>就職先へのアンケートを実施し、卒業後の活動状況を把握し課題を明確にする。</p>
学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・新たにホームカミングディを設定するなど卒業生の活動状況を把握するよう努めている。卒業生の活動状況を就職先からの情報を得て、その結果を学生教育の質向上に反映させることが必要である。 ・ホームカミングディの設定は有意義であると考え。卒後1年生のみならず、母校の先生と話せる場があることはとても大切だと思う。

VIII 地域社会／国際交流（対前年度比+0.13ポイント）

総括
<p>地域の要請を受け、北信学習センターと連携する機会を得て学校のPRと交流を図り、行事に参加し地域に貢献。高校訪問、進路ガイダンス、オープンキャンパスでは本校の教育を発信し、保護者を含めた広報の機会にも学校祭のバザーの収益金をパンダハウスに寄付し社会貢献につなげた。</p> <p>国際交流は、JICAに依頼し学習している。また国際的な医療情勢を知るために図書を購入し整備した。</p>
課題
<p>地域とのかかわりを重視した活動を展開する。</p> <p>国際的視野を広げるための自己学習ができる環境の整備に努める。</p>
学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの開催、地域の文化祭への参加、バザーの収益金をパンダハウスに寄付することなど社会貢献している。学生に国際交流に興味をもってもらうように図書を購入し自己学習できるようにし、JICAに依頼して学習の機会を設けるなどした。 ・令和5年度は積極的に地域との連携に取り組んでいた。

IX 研究（対前年度比+0.16ポイント）

総括
着手し、現在、研究テーマの絞り込みの段階である。
課題
看護研究に取り組み、令和7年度の看護学校協議会学術集会上に演題を出し発表する。
学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身が看護教育に関する研究活動に積極的に取り組む必要があります。研究テーマの選定中とのことであるが、令和6年度中に研究を開始し、令和7年度に学術集会上で発表していただきたい。

・研究活動までにはならないと思うが、TQM活動や看護協会の研究発表会等を活用して、教員としての発表も実施されるとよいと思う。

りとし